

部落解放・人権政策確立要求びわこ南部地域実行委員会

基本法ニュース

第33号

部落解放・人権政策確立の国民運動をすべての地域市民の手で

日出新聞（大正13年4月19日）

滋賀水平社大会
甲賀郡寺庄村厳浄寺に開會
無事平穩に閉會した
滋賀水平社は、甲賀郡寺庄村の厳浄寺に於て、大正十三年四月十九日、創立大会を開會した。是日、朝早くより、甲賀郡の各町村より、代表者、観衆、共々、厳浄寺に集會した。開會式は、午前八時より開始し、まず、代表者の挨拶、次に、創立の経緯、及び、今後の活動方針、等、を説明した。午後一時、懇談會が開かれ、各代表者の意見交換、及び、今後の活動方針、等、を決定した。午後四時、閉會式が行われ、厳浄寺の僧侶より、挨拶が述べられ、閉會した。是日、朝早くより、甲賀郡の各町村より、代表者、観衆、共々、厳浄寺に集會した。開會式は、午前八時より開始し、まず、代表者の挨拶、次に、創立の経緯、及び、今後の活動方針、等、を説明した。午後一時、懇談會が開かれ、各代表者の意見交換、及び、今後の活動方針、等、を決定した。午後四時、閉會式が行われ、厳浄寺の僧侶より、挨拶が述べられ、閉會した。

朝日新聞京都附録（大正13年4月20日）

**人間よ！
自然の平等にかへれ**
少年少女の火の如き叫び
縣水平社大会の光景
滋賀縣の水平社は、大正十三年四月十九日、甲賀郡寺庄村の厳浄寺に於て、創立大会を開會した。是日、朝早くより、甲賀郡の各町村より、代表者、観衆、共々、厳浄寺に集會した。開會式は、午前八時より開始し、まず、代表者の挨拶、次に、創立の経緯、及び、今後の活動方針、等、を説明した。午後一時、懇談會が開かれ、各代表者の意見交換、及び、今後の活動方針、等、を決定した。午後四時、閉會式が行われ、厳浄寺の僧侶より、挨拶が述べられ、閉會した。是日、朝早くより、甲賀郡の各町村より、代表者、観衆、共々、厳浄寺に集會した。開會式は、午前八時より開始し、まず、代表者の挨拶、次に、創立の経緯、及び、今後の活動方針、等、を説明した。午後一時、懇談會が開かれ、各代表者の意見交換、及び、今後の活動方針、等、を決定した。午後四時、閉會式が行われ、厳浄寺の僧侶より、挨拶が述べられ、閉會した。

今から100年前の1924年4月18日に、滋賀県水平社が現在の甲賀市甲南町の厳浄寺で創立されました。当時の新聞では、創立大会に参加した少年の「人間は生まれ乍らにして一切平等であらねばならぬ、人間よ自然の平等に帰れ」

滋賀県水平社創立

滋賀県水平社創立100周年を
迎えました



という魂の叫びともいえる言葉が伝えられています。

人権侵害は 今なお存在する

100年前と比べると人権意識は向上し、ともすれば私たちの身近に差別は存在しないと感じてしまう人もいるか



厳浄寺での水平社創立大会の様子が描かれたイラスト
(小久保信蔵筆／甲賀市かえで会館で展示)

もしもありません。しかしながら、部落差別や各種の人権侵害は今なお存在し、それによって苦しんでいる人がいることをしっかりと認識する必要があります。特にインターネットやSNS上では誹謗中傷や差別的な書き込みが横行しており、新たな差別を生み出しています。今の時代における人権課題を正しく理解し、社会がいかに変動しようとも決してゆるがない人権意識を確立することが求められています。

人権が尊重される
社会の実現に向けて

人の世に熱あれ、
人間に光あれ

（水平社宣言より）

滋賀県水平社創立から100年が経った今、あらためて、水平社創立の原点や先人の熱い思いを振り返り、差別を決してゆるさず人権が真に尊重される社会の実現に向けて、力を合わせて取り組みましょう。

1924年の 出来事



阪神甲子園球場完成
パリオリンピック開催

●この時代に活躍した人物●

渋沢 栄一（84歳） 北里 柴三郎（71歳）
津田 梅子（60歳） 芥川 龍之介（32歳）



びわこ南部地域における各市の取り組みを紹介します。今回は湖南省と栗東市です。

湖南省

見えづらい部落差別と私たちの日常

8月1日(木)、上川多実さみをお招きし「見えづらい部落差別問題」をテーマに、部落差別問題とは何か、なぜ差別するのか等について、ご自身の体験を交えてお話しいただきました。

部落差別は、江戸時代以前の封建的身分制度のもと、社会の中で重要な役割を担いながらも、歴史的・社会的に差別された地域に住む人や、そこにルーツのある人たち等に対する差別です。「知らなければ差別は起こらないから、そっとしておけばなくなる」

という考え方(寝た子を起こすな論)は、知らないからこそしてしまう差別もあるため、今差別を受けている人に「我慢しろ」と言っていることになりそうです。上川さんは「共感してほしいのではなく、差別の仕組みを理解してほしい」「無関心や無知が、当事者にはとてもつらい」と話され、自分が気付かないうちに相手を傷つけている可能性があることを、あらためて考える機会となりました。

また、マジヨリテイの人が持つ優位性は社会が作り出すもので、全ての人が配慮される社会なら無くなるとお話しいただきました。差別は個人の問題ではなく社会構造の問題であることや、差別は「する・しない」ではなく、社会の中に「ある」こと、また「差別がある社会の中でどう生きるのか、そんな社会をどう変えていくのが大切」という言葉が印象的でした。参加者からは「差別の構造を知ることができ、大変勉強になりました」「自分のマジヨ

リティ性や社会の当たり前に気付くことで、相手に寄り添うきっかけになると思いました」という声をいただき、新たな気付きにつながる有意義な講座となりました。



部落差別問題は、今も社会に根強く存在していますが、差別に対する正しい知識を身に付け、今後も市民と共に差別のない社会の構築に向けて取り組んでいきます。

栗東市

栗東市では一人ひとりが互いの人権を尊重し合い、差別や偏見のない住みよいまちづくりをめざして、「一人ひとりがまず一步！差別を『なくす』行動を！」を合言葉とし

てあらゆる差別の解消に向け、地区別懇談会や各種研修会等で、あらゆる人権を対象とした教育と啓発に取り組んでいます。

人権啓発リーダー講座

地域や学校・園において主体的に啓発活動を行う人権啓発リーダーとしての人材を育成し、差別をなくす行動を広げていくことを目的に実施。学びたい方のニーズに合わせて5つのコースを設定し、全12回の講座を開催しています。



2024じんけん

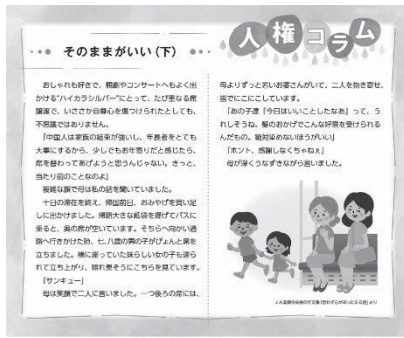
セミナー栗東

7月19日(金)に元日本テレビアナウンサーの藪本雅子さん

んをお迎えし、「私はきらめき人になる」と題したセミナーを開催しました。ハンセン病の取材をきっかけに見えてきたさまざまな差別は、女性、LGBTQ、部落差別等様々ありました。そんな差別の現実を目の当たりにしていくうちに、決して他人事ではなく、自らも差別する側の当事者であったことに気付いたという講師のお話は、自分や他人を尊重し、誰もが対等に生きられる社会にするためにできることは何か、何をすればよいかを、考えるきっかけとなりました。



JALEUK 滋賀草津地区の取り組み



広報誌「ゆいっと」内記事

JALEUK 滋賀では、人権尊重の経営理念に基づいた事業活動を行っております。役員一人ひとりが、JALEUK の社会的責任を自覚するために、職場内外で人権教育の一層の充実と差別のない職場、社会づくりに努めています。

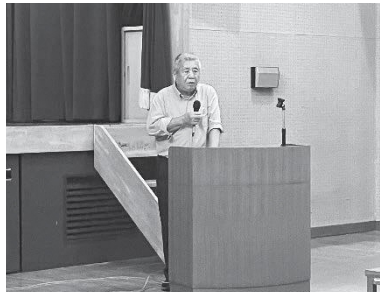
職場内での具体的な啓発の取り組みとしては、各課・支店・事業所において、人権に関する学習会を四半期に1回開催し、人権問題の知識を学び、正しく理解することをめざしています。

職場外では、JALEUK プ及び自治体をはじめ各種団体が主催する人権研修会に積極的に参加し、地域や社会で抱える問題に向き合い、あらゆる差別の解消と人権の尊重される社会の実現に取り組んでいます。また、JALEUK 滋賀の毎月発行している広報誌内に、「人権コラム」を掲載し、組合員や地域への啓発活動を行っています。

人権問題は、私たちすべての人にとって身近な問題であり、誰もが取り組んでいかなければならないと考えます。今後も人権尊重を基本とした活動に取り組んでいきます。



滋賀人権啓発企業連絡会・甲賀ブロックの取り組み



滋賀県人企連では、同和問題をはじめ、あらゆる人権問題の早急な解決が国民的な課題であり、同時に企業に要請される社会的責任であるとの認識の下、関係行政機関と協力しつつ、企業が自主的・主体的に人権問題に関する正しい理解を深め、あらゆる人権問題の解決に資することを目的としています。

年間の主な活動内容

■総会(年1回) 幹事会(ほぼ毎月)

■研修事業

- ・人事労務担当者研修会
- ・経営者研修会
- ・新入(若手)向け研修会
- ・リーダー養成講座 等

■関係団体との連携・交流事業

- ・部落解放研究滋賀県集会
- ・滋賀県人権教育研究大会
- ・部落解放滋賀県女性のつどい 等

■各種イベントへの参加

- ・人権啓発研究集会
- ・同和問題に取り組む全国企業連絡会全国集会等

■研修事業内容の紹介

新入(若手)社員向け研修会

開催日: 7月5日(金)

場 所: アクティ近江八幡多目的ホール

講習内容

●「部落差別の現実から学ぶ」

講師: 部落解放同盟滋賀県連合会

まるもと せんご
丸本 千悟さん

●「人権課題の現状と課題」

講師: (公財) 滋賀県人権センター

かわぐち もりお
河口 守男さん

2024年度

第34回定期総会を

開催！

部落解放・人権政策確立要求びわこ南部地域実行委員会定期総会を5月18日(土)、野洲文化ホールで開催しました。総会には、市民団体や企業、議会、行政等が参加し、「人権侵害救済法」の早期制定に向けて、組織を挙げての取り組みを展開していくこと等が盛り込まれた活動方針及び今年度の役員が全会一致で決議・承認されました。

〈活動方針(概要)〉

2016年に障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法・部落差別解消推進法、2019年にはアイヌ施策推進法が制定・施行され、それぞれの人権課題への対策が講じられることになりました。しかし今般では、インターネットの普及に伴い、様々な差別情報の氾濫や誹謗・中傷、チャットGPTに代表されるAIが急速に発展していることによるリスクも生じています。

そのような中、2024年4月には滋賀県水平社創立100年を迎えました。あらためて水平社創立の原点や先人の熱い思いを振り返るとともに差別のない人権が尊重される社会の実現に向けて、本会はその目的・意義を再確認し加盟団体との連携を深め、より実効性のある組織として活動していきます。

● 総会後に記念事業として映画を上映しました

◆映画 「福田村事件」

◆内容 1923年9月6日、関東大震災直後の混乱時、流言飛語が生み出した社会不安の中、香川県の被差別部落出身である葉の行商団15人が、当時の千葉県「福田村(現・野田市)」を通過しようとした際に、自警団等によって9人が殺害された事件(福田村事件)を映画化したものです。確かめもしないことがまことしやかに人から人へと伝えられ、差別をつくりだし、人権や生命をも奪う行為は、まさに現代社会のネット上で起こっています。この映画をとおして自分が差別とどう向き合い、何ができるのかを再認識することができました。

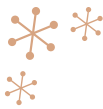
2024年度 役員構成

会 長	田中 進(JAレーク滋賀)
副 会 長	辻川 明宏(草津市)
	福井 靖(守山市)
	中井 昌和(部落解放同盟)
	小高 正裕(滋賀人企連)
	小栗 博明(連合滋賀)
事務局長	田中かよ子(部落解放同盟)

幹事級研修会を開催(10月4日)

演題 「現代の人権課題

「水俣病、ハンセン病そして部落問題の今日」



講師

はなだ まさのり
花田 昌宣さん(熊本学園大学教授)

今年度の幹事級研修会は、花田先生を講師にお招きし、水俣病やハンセン病、部落問題に焦点をあてて、現代の人権課題について、分かりやすく解説いただきました。

● 水俣病

水俣病は、産業活動によって生み出された有機水銀を含む有害物質が、海に排出され、食物連鎖を経て、人体に取り込まれて起きた公害病です。水俣病発生が確認されてから60年以上が経過しますが、今なお、裁判が行われており、水俣病患者の苦悩や苦闘は続いています。

● ハンセン病

ハンセン病は、らい菌による細菌性感染症であり、末梢神経と皮膚に障害を引き起こす病気です。

実行委員会に加盟しませんか？

びわこ南部地域では、人権確立とあらゆる差別撤廃のための法整備に向けて活動をすすめています。加盟すると、①人権研修の案内②基本法ニュースの配布③人権に関する情報交換ができます。

《年会費》3,000円

事務局

草津市人権政策課
までお問い合わせください。※加盟は、機関・
団体単位で

☎077-561-2335

● 部落問題

インターネット上の差別書き込みや差別落書き、身元調査等、部落差別が今なお後を絶ちません。このような状況を認識し、我々は重く受け止めなければなりません。

● 人権課題の解決に向けて

今日の人権課題は、水俣病やハンセン病、部落問題の他、外国人や障害者の人権問題等多岐にわたっています。

それぞれの人権課題について、自らの課題として考えていくことが大切です。